

いつでも、どこでも、だれにでも…

私たちは、地球温暖化で経験したことのない災害が頻発する時代に直面している。大雨洪水・暴風・竜巻・地震など多種多様な災害情報が、様々な発信機関から、テレビ・ラジオ・メールなどで、リアルタイムで寄せられる。そのたびに不安や安堵が交差する。

今年もまた活発な梅雨前線が九州をはじめ、岐阜・長野に豪雨被害をもたらした。何十年に一度の大雨が、ここ数年毎年のように被害をもたらしている。倒壊した住宅・店舗・土砂で遮断された国道、濁流に押し流された橋、死者や行方不明者も。冠水した田畑では、収穫期を迎えていた農作物の無残な姿がある。

地震も頻繁に起きている。震度3以上の地震は、6月1日から7月9日の関東地方の震度4を含めて19回である。コロナ感染防止の対策を講じた避難所のあり方などの課題、防災情報の正しい認識と行動のあり方についても、我が事として考えていくべきだ。

自然災害は、何時でも、どこでも、誰にでも、遭遇する自覚にたち、日常的に万全の備えが必要である。

私も委員会に参加します！

命の尊さを心に刻んで生きるためには、「忘れてはいけないことがある」「受け継がなければならないことがある」。本校の総合学習では、命の大切さを学ぶことを土台にすえて、さまざまな切り口で命・生き方・平和の学習をしています。東日本大震災の学習もその一つです。そのため、東日本大震災被災地応援実行委員会は、総合の学習から誕生した委員会で、総合科の教員が担当する委員会です。今年度も学習を通じて、委員会に参加してくれてくれた中学生がいます。

- 私は、大震災が起きたときはまだ幼かったので、怖さはぜんぜん分かりませんでした。しかし、大阪北部地震を経験して、怖さを知りました。あの時、自分の小学校が被害にあったことが一番辛かったです。東日本の大震災とは違いますが、少しは分かり合えると思うので、力になればいいなと思い参加します。中1 NS
- 当時は、小さくて何もできない私でしたが、今ならば、被災者のために、できることがあれば行動したいと思いました。中1 KM
- 今まで、平和に暮らしていた人や町が、一瞬にして壊れていく様子を見て、心が痛くなりました。今からでも私にできることがあればと思い参加を決めました。中1 KM
- 私は人の役に立ちたいと思っています。大阪北部地震のときに、私の家族は一晚避難所で過ごしました。床が固くて、寝苦しかったことを良く覚えています。余震もとても怖かったです。そんな経験から、私は被災された人の役に立ちたいと思い、委員会に参加しました。中1 UR

高3生から新入生への Message

○私は、1年生の時から被災地応援実行委員会として活動しています。入った理由は少しでも困っている人たちの力になりたいという思いがあったからです。学生の私ができることは少ないけれど、学校という場でなら沢山のことが自分にも出来るのではと思えました。コロナで STOP していた活動が1日でも早く再開できるよう頑張ろうと思います。一緒に活動できる日を楽しみにしています。(高3・楠木)

○私はこの活動を通して学べたことは大きく二つあります。一つ目は人と人の繋がりです。一人の力だとわずかですが同じ意思を持った仲間とならその力はひとりの何倍にもなるということです。何事にも物事を行うには仲間たちの協力は必要です。二つ目は考える力です。自分には何が出来るのか、私なりのボランティアとは何か徐々にわかるようになってきます。ボランティアとはチャリティであり、見返りは無いと思う人もいるかもしれませんが。しかし私の中にはボランティアで培った感動と充実感、経験が残っています。私たちと誰かの心に残るようなスーパーヒロインを目指しませんか。あなたのその優しさと勇気をお待ちしています。(高3・谷口)

○私たちが被災費応援実行委員会は「心のある支援」を大切に活動してきました。この委員会で活動する上で大切なこと、それは「被災地の方々の声を聴く」という事です。被災された方々が、今、どういう支援をしてほしいのか、何を求めているのか、そのような声を私たちが聴き「心のある支援」をしなければいけないと学びました。(高3・田野)



○私は去年の夏に行われた、トウホク留学のメンバーに所属していました。お家の都合で、東北には行けなくなってしまいましたが、留学期間中は他のメンバーとテレビ電話で共に反省会を行ったり、文化祭でトウホク留学のプレゼンをしたりしました。そこで東北の今を知り、東北にはまだまだ支援が必要だということに気付きました。この委員会に入る前は、「もう復興できてるかなあ…」と軽く考えてしまっていたので、この委員会に入って気付くことができよかったです。皆さんも私達と一緒にこれからの支援の在り方について考えていきましょう。(高3・渡辺)

委員会では「津波・高潮ステーション」の見学を計画しています。

コロナウィルス感染症の感染防止に気をつけながら、豊かな学びを目指して、夏季休暇期間に大阪「津波・高潮ステーション」へ見学に行こうと企画しています。社会状況に応じて実現できるか判断しなければいけません。興味のある方がいれば、どうぞ佐藤(昂)先生までお知らせください。近辺に平安女学院の発祥の地、川口居留地などあり散策することが出来ます。密集を避けるため、人の少ない時間帯・人数での実施になります。

